

# 【地域と連携した大阪大学医学部附属病院 教育研究基盤強化事業】

## （事業概要）

大阪府と連携した医師派遣により地域医療の分化・連携を推進し、教育はコモンディジーズを地域で、重症・高難度医療は本院で担う体制を構築。本院ではICU・NICU等の増床、手術、小児、ER部門の強化を含む重症・高難度医療の診療・教育体制を強化。研究面では、医師派遣とOCR-netを融合させた地域連携型多施設共同臨床研究体制を構築・推進。

## 改革のビジョン（骨子）

- 医師派遣を病院長が全体把握・調整する体制を構築し、大阪府及び府内の大学病院と連携した医師派遣（協議体設置等）の検討を進め、地域医療構想の実現を図る。
- 教育面では、コモンディジーズ（日常的に高頻度で遭遇する疾患）の教育は医師派遣先病院、重症・高難度医療の教育は本院で行うことで、地域と連携した臨床教育を行っていく。
- 研究面では、医師派遣とOCR-net（大阪臨床研究ネットワーク）を融合させ、地域医療機関と共同で研究症例を集積し大規模な臨床研究を推進する。
- 重症系部門（ICU等）、手術部門等の機能強化を図り、経営基盤の強化を行うとともに、機能集約により診療エフォートの肥大化を防ぎ、教育・研究体制の再構築を図る。

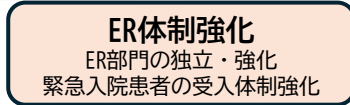
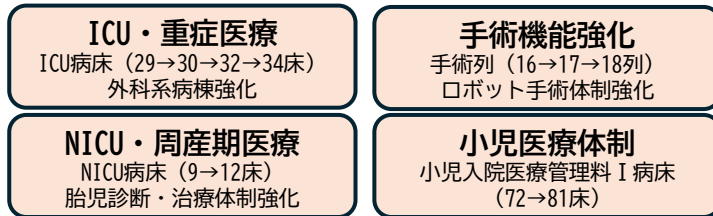
## <事業の実施体制>

病院長が医師派遣を含めた各部門の人的資源の全体把握・調整し、大阪府の健康医療部と本学並びに大阪府下の4大学が連携した医師派遣による地域医療構想の実現ができる体制構築（協議体等）の検討を進め、地域医療構想の実現を図る。

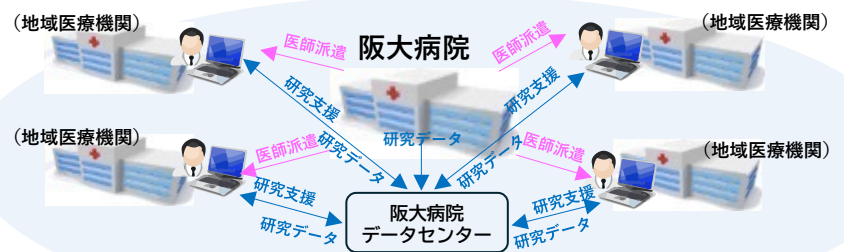
※令和8年1月29日に大阪府の健康医療部長と病院長で方向性確認済。

## <本院の取組>

### ●重症・高難度医療に特化した診療機能の強化計画



### ●医師派遣とOCR-net（大阪臨床研究ネットワーク）の融合



地域連携型多施設共同臨床研究体制の構築・推進

## <地域と連携した臨床教育>

コモンディジーズの教育は地域の医師派遣先病院  
 重症・高難度医療の教育は本院

## <地域連携型他施設共同臨床研究による研究人材の育成>

本院データセンターに臨床研究データを集積  
 地域医療機関へ臨床研究支援を行い、研究人材を育成

- 診療ボリュームの肥大化を抑えながら、高収益化による経営基盤強化
- 地域と連携した機能集約・分化による教育研究機能の基盤強化

教育・研究時間の創出による好循環